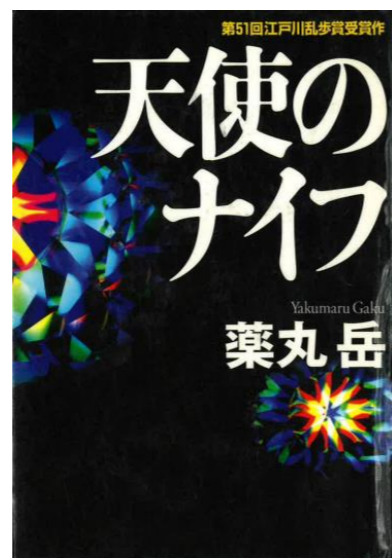


『天使のナイフ』

薬丸 岳 著

薬丸岳のデビュー小説です。主人公は、氷川参道の近くにあるカフェの店長で、物語の重要な場面として、氷川参道、大宮公園、さいたまスーパーアリーナなどが登場します。旧・大宮図書館と思われる図書館では、主人公が新聞縮刷版を調べる様子も描かれています。この作品で、「第51回江戸川乱歩賞」を受賞しました。



2005年刊行 講談社

このミステリーは…

主人公・松山貴志は、13歳の少年3人に妻を殺害されます。少年犯罪であったため、罪に問われることはなかったことへ怒りを抱えながら生きてきましたが、4年後に少年のうち1人が殺されたことで、貴志は容疑をかけられてしまいます。被害者と加害者双方の視点から、少年犯罪との向き合い方を問う物語です。



2005年刊行 宝島社

『果てしなき渴き』

深町 秋生 著

深町秋生のデビュー小説です。主人公は大宮警察署の元刑事で、失踪した娘を探して、大宮を中心としたさいたま市内を歩き回ります。この作品は、「第3回このミステリーがすごい!大賞」の大賞を受賞し(当時は、『果てしなき渴きに眼を覚まし』古川敦史の名義で受賞)ベストセラーとなり、2014年に「渴き。」というタイトルで映画化されました。

このミステリーは…

主人公の元刑事・藤島秋弘は、元妻から失踪した娘を探してほしいという連絡を受けますが、捜査を進めるうちに娘の闇を知っていきます。一方、娘に恋をした同級生の少年は、次第に彼女の狂気に惑わされていきます。現在と過去が錯綜する世界は、緊張感にあふれています。

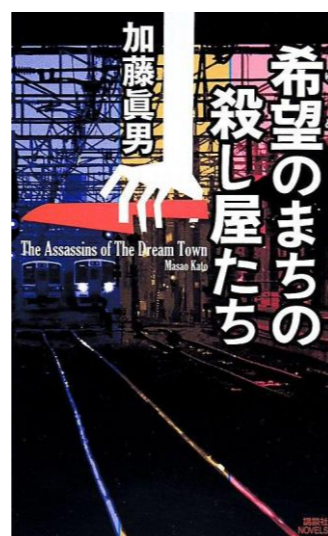
『希望のまちの殺し屋たち』

加藤 眞男 著

大宮出身の加藤眞男の書き下ろし小説です。タイトルにさいたま市の市歌「希望のまち」を取り入れており、大宮を中心とした地元ネタ満載の本格ミステリー小説です。殺人を計画した1人が、殺し屋を探そうと旧・大宮図書館のパソコンを借りて検索するものの、セキュリティが厳しくて閲覧ができないというシーンが登場します。

このミステリーは…

デパートの呉服店で働く女性、不倫相手に没頭する建築士の男性、恋に悩む受験を控えた男子高校生の3人を軸にした物語です。大宮で平凡に暮らしていた3人でしたが、あることをきっかけに殺人を計画します。ばらばらだった殺人計画でしたが、物語が進むにつれてその関係性が明らかになります。



2014年刊行 講談社

第22回 企画展 大宮 × ミステリー小説!

作家たちが見た大宮2

2024年3月6日(水)~4月28日(日)

1885(明治18)年に開園し、観光地として栄えた氷川公園(現・大宮公園)のある大宮は、永井荷風や森鷗外など様々な作家を惹きつけ、物語の舞台として作品に登場してきました。そして、それは現在でも変わることなく、東日本の鉄道網の拠点として発達した大宮駅や駅前の繁華街をはじめ、歴史ある氷川神社や、市民の憩いの場である氷川参道・大宮公園など、様々な物語の中に大宮の街並みが登場します。

今回の展示では、その中でも「ミステリー」をテーマにした、大宮が登場する小説をご紹介します。作家たちが書いた物語のどんな場面で大宮が顔を見せるのか。ぜひお楽しみください。

No	種別	内容	所蔵
1	書籍	『寝台特急「北斗星」殺人事件』西村京太郎 著 1989年刊行・第8刷 光文社	
2	書籍	『諏訪湖マジック』二階堂黎人 著 1999年刊行・初版 徳間書店	
3	書籍	『誘拐ラブソフィー』荻原浩 著 2001年刊行・初版 双葉社	大宮西部図書館蔵
4	書籍	『発火点』真保裕一 著 2002年刊行・初版 講談社	
5	書籍	『天使のナイフ』薬丸岳 著 2005年刊行・第5刷 講談社	
6	書籍	『果てしなき渴き』深町秋生 著 2005年刊行・初版 宝島社	
7	書籍	『希望のまちの殺し屋たち』加藤眞男 著 2014年刊行・初版 講談社	

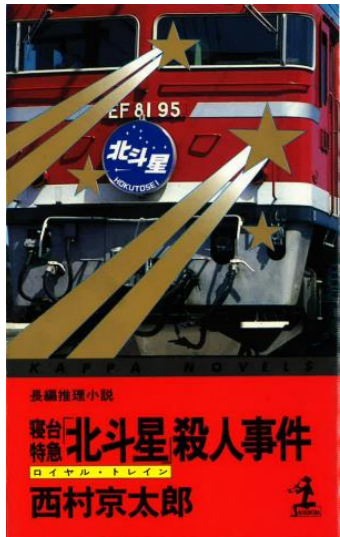
所蔵欄に記載がないものは、大宮図書館所蔵です
書影画像はBOOK データ ASP から引用しています

参考文献

◆今回の企画展にあたり、各作家の小説のほか、下記資料を参考とした。

- 『さいたま文学紀行-作家たちの描いた風景-』朝日新聞さいたま総局/編 さきたま出版会 2009年
- 『作家の履歴書-21人の人気作家が語るプロになるための方法-』阿川佐和子/著ほか KADOKAWA 2014年
- 「アコレおみや」No.18 一般社団法人アコレおみや発行 2013年
- 「一般社団法人 日本推理作家協会 ホームページ」<http://www.mystery.or.jp/>
- 「光文文化財団 ホームページ」<https://kobun.or.jp/>
- 「講談社BOOK倶楽部 ホームページ」<https://bookclub.kodansha.co.jp/>
- 「実業之日本社 ホームページ」<https://www.j-n.co.jp/>
- 「新潮社 ホームページ」<https://www.shinchosha.co.jp/>

2024年3月6日
さいたま市立大宮図書館
さいたま市大宮区吉敷町1-124-1
電話 048-643-3701 FAX 048-648-8460



1988年刊行 光文社

『寝台特急「北斗星」殺人事件』 ロイヤル・トレイン さつじんじけん 西村 京太郎 著

鉄道や観光地を題材に、推理小説を数多く執筆した西村京太郎の小説です。警視庁捜査一課・十津川警部が主人公のこのシリーズは、1978年発表の「寝台特急殺人事件」がベストセラーになっています。今回の事件では、列車に仕掛けられた爆弾の謎を追って、主人公がJR大宮工場へ向かう姿が描かれています。

このミステリーは…

十津川省三警部は、爆破予告のあと車両の一部が破壊された北斗星5号の次なる被害を防ぐべく、かつて自分の部下だった探偵と協力することになります。札幌へ向かう豪華寝台特急はなぜ狙われたのか、十津川警部と犯人の知恵比べが楽しめるスリリングな小説です。

『誘拐ラプソディー』 ゆうかい

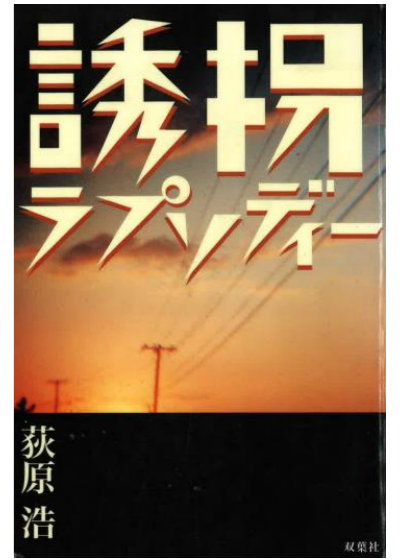
荻原 浩 著

大宮出身の荻原浩の小説です。さいたま市の旧4市(大宮・浦和・与野・岩槻)をまたにかけた誘拐劇の中で、埼玉県警察、暴力団、外国人マフィアが主人公たちに迫ります。

著者は、巻頭で「地図から消えてしまった我が故郷、大宮市に愛をこめて」と記しています。

このミステリーは…

家もなく借金と前科を抱え独りで暮らしていた主人公・伊達秀吉に、突如お金持ちの少年を誘拐するチャンスが訪れます。秀吉は少年を引き連れ、大宮をはじめ、さいたま市内の各地を逃げ回ります。笑いあり涙ありの誘拐ストーリーです。



2001年刊行 双葉社



写真「国鉄大宮工場」(1987年撮影) アーカイブズセンター提供
『寝台特急「北斗星」殺人事件』の重要な場所として大宮工場が登場します。ここでは、鉄道車両の修繕・補修のほか、戦前には蒸気機関車の製造も行われ、大宮を「鉄道のまち」へと導きました。



写真「大宮駅西口」(2024年撮影)
1982年に東北新幹線、その翌年にはニューシャトルが開通した大宮駅は、東日本の鉄道網の拠点として発達してきました。今回紹介する7作品全てに、大宮駅が登場します。



写真「氷川参道」(2021撮影)
『天使のナイフ』では、氷川参道の近くに主人公が経営するカフェがあります。また『希望のまちの殺し屋たち』でも旧・大宮図書館へ向かうために氷川参道を通るシーンが登場します。



写真「旧・大宮図書館」(2019年撮影)
氷川参道の二の鳥居付近にあった図書館で、1973年～2019年まで使われていました。今回紹介する作品にも、事件や殺し屋の情報を探しに度々登場しています。

『諏訪湖マジック』 すわこ

二階堂 黎人 著

大掛かりなトリックが特徴の、二階堂黎人の小説です。

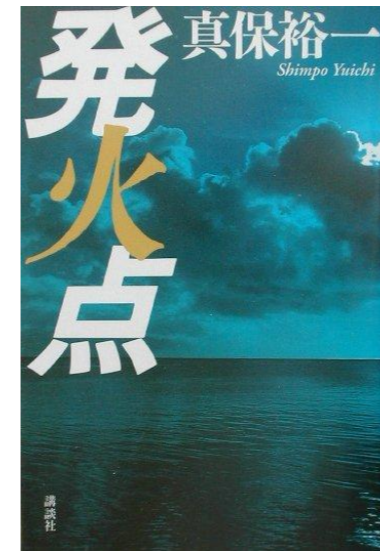
この作品では、大宮駅北側の陸橋から投げ落とされた男性の死体が鍵となり、物語が展開していきます。「大宮駅」や「ソニックシティ」、「ルミネ」など大宮にゆかりのある場所が登場します。



1999年刊行 徳間書店

このミステリーは…

主人公の探偵・水乃サトルは、諏訪で再会したかつての同僚から父親の捜索を依頼されます。郷土史研究家で、武田信玄の墓を探索中に行方不明になった父は、先日大宮駅北側の陸橋から投げ落とされた男性と同一人物でした。サトルが、列車の運行をトリックとした事件の解決に挑みます。



2002年刊行 講談社

『発火点』 はっかてん

真保 裕一 著

真保裕一の小説です。大宮市天沼町5丁目出身の主人公が、大宮駅で電車を降りて母親の実家を訪ねるシーンが登場します。

文庫版あとがきで作者は、「物語の雰囲気を作る際、街は重要な役割を果たす」と記しています。

このミステリーは…

主人公の杉本敦也は、12歳の夏に父親を殺害されてしまいます。犯人は、父の友人と名乗る人物でした。21歳になった敦也が、失った9年間と、事件の真相を追い求める物語です。